

思うようにならないから面白い。
好きな研究で社会の役に立てるのが幸せ。



研究内容

人の役に立つ研究は
やりがいがあり、楽しい

いまやっているのは環境保護や、自然環境の保全、修復に関する研究です。土木系の開発によって引き起こされる外来種の侵入などの環境変化が生物にどのような影響を及ぼすのかについて、フィールドワークを中心にデータを取って分析などを行っています。フィールドは近場の河川から干潟、山岳地帯まで色々なところへ行きます。扱っている生物も魚類、昆虫、植物などさまざま。外来種の侵入をどうしたら食い止められるかをモデルを立ててシミュレーションしたり、実際に外来種が侵入した時に、どうやって在来種を救えるか、また新たに開発された土地は外来種が侵入しやすいけれども、どうやったら侵入しないように開発ができるかなどといった研究です。研究は楽しいし、とてもやりがいがありますね。

名古屋工業大学
都市社会工学科 教授

増田 理子

1
ROLE MODEL

PROFILE

東京大学 理学部 卒業。
筑波大学大学院 環境科学研究科 修士課程修了。
東京大学大学院 理学系研究科 博士課程修了。
日本学術振興会特別研究員を2年間行った後
九州大学などで研究生として在籍後、愛媛大学へ就職。
その後、名古屋工業大学へ。2016年4月より教授。現在に至る。

特に工学は人の役に立つ研究であることが魅力。名古屋工業大学に来てもう12年になりますが、この大学は学生のレベルが高いのでとても指導がしやすいと感じています。

研究者への道のり

理科の先生だった
親の影響で研究者の道に

研究者をめざしたのは、中学の理科の教師をやっていた両親の影響が大きいと思います。漠然と研究者になりたいと思っていましたが、研究者になるには良い大学に進学した方がいいと思い、公立の進学高校から東京大学理学部へ進学。ところが大学4年生の時に行きたかった研究室が無くなり、大学院は筑波大学環境科学研究科へ進みました。博士課程では東京大学でもやりたかった研究をやれる環境が整い、再び東京大学へ戻り、その後日本学術振興会特別研究員を2年間行った後、結婚。夫が福岡に就職したので九州大学で研究生を4年間やって出産もしました。そこからは子育てと研究の両立が難しく、やはり研究を続けたくて愛媛大学で教員として就職しました。子育てと両立しながら5年ほど頑張りましたが結構大変で、何かあると静岡の実家から母に手伝いに来てもらっていました。その後名古屋工業大学へ移ってからは、母にも来てもらいやすくなりました。



工学の魅力について

データから導きだされる
意外性が面白いんです

研究をしていて面白いのは、通常こうなるであろうと考えられていることが、実際は違った結果になることもあるということ。例えば外来種が入ってくると、もともといた在来種が駆逐されると言われているけれども、実際は共存していたり、有害な遺伝子が環境が変わると良い方向に働いたり、逆に環境が変わると良くなると言われている遺伝子が悪くなったり。そういう思わぬ変化が面白いんです。実は遺伝子の発現というのは環境の作用がすごく重要で、環境の作用で発現されるか否かが決まってくるということが分かってきました。これまではいいと思われてきたものが実は大事だったりします。そういう意味でも、特にデータに関してははずれ値と言われているものも、実ははずれではないかもしれないと思っています。だからデータの選択をしないで、全てのデータを大切にしています。工学のなかでも生態学の分野は、お金をかけずに研究しようと思えばできる分野。極端に言えば、ものさしと顕微鏡とコンピュータがあれば研究が可能ですが、そうは言っても必要な費用はかかるので、なるべくアイデアでよりよい研究ができるように努力をしています。

女性の工学について

タイミングを逃さないよう
「やれることをすぐにやる」

研究を続ける中でどんな場面でも貴重なチャンスを逃さないよう、常に「やれることをすぐにやる」という姿勢が身に付きました。何しろ生態学なので1年に1回しか花が咲かないとか、その時を逃すとデータが取れなくなることがほとんど。気候も毎年変化するので、1回1回の観察やその時にできることを大切にしています。いまでこそ子どもも大きくなっていますが、子育てと研究との両立は大変でした。私は両親が共働きで家事も分担していて、まさに男女平等の家庭があたりまえの環境で育ちましたが、そうじゃない環境もあります。そこで相手を変えるのは難しいが自分を変えることは簡単にできると気づいて、自分のできる努力をしてきました。だから女性であっても自立して稼げる部分に責任を持つべきだと考えています。女性とか男性とか関係なく人生や仕事においては、まず「好き」を大切にしてほしいですね。せっかく工学の道に進んだのですから研究が好きだと思っている学生さんには、一生を賭けてやる価値はあると、背中を押したいと思います。社会の役に立つことは素晴らしいことです。さらに女性研究者が増えれば、研究のバリエーションも広がる気がします。

学生の皆さんへ

社会の役に立てる工学は一生を賭ける価値があると思います。女性研究者が増えれば研究のバリエーションも増えるのでぜひチャレンジしてください。

